

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 岡部 明仁	職名 教授	学位 博士 (バイオサイエンス) (奈良先端科学技術大学院大学 2001 年)
----------	-------	---

研究分野	研究内容のキーワード
神経科学、神経生理学、神経解剖学、自律神経機能、呼吸生理、病態生理	抑制性神経伝達物質 (GABA、グリシンなど)、Cl ⁻ 共輸送体、細胞内 Cl ⁻ 濃度、呼吸リズム、延髄、摂食・満腹中枢、視床下部

研究課題
1. 発達期における細胞内 Cl ⁻ 濃度の減少に伴う、GABA 作用の興奮性から抑制性へのシフトが呼吸リズム形成に与える影響の検討。 2. 哺乳から食餌行動へ移行する際の、視床下部における GABA 神経回路変化の組織学的検討。

担当授業科目
生物と生命科学 (前期) 解剖生理学 (前期) 人体の構造と機能基礎実習 (分担・前期) 初年次セミナーI (分担・前期) 応用生理学 (後期) 解剖生理学実習 (後期) 初年次セミナーII (分担・後期) 管理栄養士演習 I (分担・通年) 生理学 (後期) (福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 生物と生命科学 】 毎回可能な限り講義時間の 10 分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。高校で生物を選択していない学生にも苦手意識ができないように、意識的に身の回りの出来事と関連させながら講義を行った。 定期テスト終了直後に解答を「講義資料配布システム」にて公開し、疑義紹介時間を設けるようにした。
授業科目名【 解剖生理学 】 講義を PowerPoint で行っているため、講義スライドを全て印刷し配布した。補足のスライドなどはカラーが多いので、「講義資料配布システム」を用いていつでもどこでもどの端末からでも講義スライドをカラーで見ることができるように配慮した。本年度は、人体の構造と機能基礎実習と本講義が並行して進められたので、座学と実習の連携を特に意識して行った。 定期テスト終了直後に解答を「講義資料配布システム」にて公開し、疑義紹介時間を設けるようにした。
授業科目名【 人体の構造と機能基礎実習 】 後半 10 回を担当した。実習書は毎回配布し、翌週にレポートとして提出してもらうようにした。実習では、自分の体を使って実習を行うことでヒトの体に興味を持ってもらえるよう工夫した。マウスの解剖実習を行うことで、命の大切さと臓器の配置の精巧さを体験してもらうことで、座学の解剖生理学と強く連携していることを意識してもらえるようにした。加えて、提出してもらったレポートは必ず翌週の実習時には返却し、実習内容を覚えているうちに知識の定着・上書きをしてもらえるよう努力した。

<p>授業科目名【 初年次セミナーI 】</p> <p>栄養学科で必要な計算と単位について、講義・演習を行った。少しの油断で計算ミスや単位換算ミスをしてしまうことを特に意識してもらうようにした。大学生としては安易な計算ドリルを用いて計算速度を競ってもらい、その検算を電卓を用いていかに早く行えるかを競ってもらった。ゲーム的要素を取り入れることで、退屈させないよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【 応用生理学 】</p> <p>講義を PowerPoint で行っているので、講義スライドを全て印刷し配布した。補足のスライドなどはカラーが多いので、「講義資料配布システム」を用いていつでもどこでもどの端末からでも講義スライドをカラーで見ることができるように配慮した。本講義内容は、管理栄養士国家試験に出題される内容が非常に多いので、それを意識してもらえるように注意を促し、試験問題を国家試験に出題されたものを一部利用して作成した。定期テスト終了直後に解答を「講義資料配布システム」にて公開し、疑義紹介時間を設けるようにした。</p>
<p>授業科目名【 解剖生理学実習 】</p> <p>実習書は毎回配布し、翌週にレポートとして提出してもらうようにした。本実習では、自分の体を使って実習を行うことでヒトの体に興味を持ってもらえるよう工夫している。加えて、体を構成する組織に意識を向けてもらうために、バーチャルスライドを用いて組織標本のスケッチを行うことで、器官・組織が様々な形の細胞からできていることを理解してもらえるよう構成した。本実習も提出してもらったレポートは必ず翌週の実習時には返却し、実習内容を覚えているうちに知識の定着・上書きをしてもらえるよう努力した。</p>
<p>授業科目名【 初年次セミナーII 】</p> <p>栄養学科で使用する単位およびプレゼンテーションの基本について講義・演習を行った。単位については前期と内容を一部重複させて復習を兼ねたものにし、知識の定着を狙った。プレゼンテーションの基本については、口頭発表とポスター発表に分けそれぞれの特徴と提示の仕方を、具体例を用いて伝えた。特に口頭発表では、ニュースアナウンサーを例にして実生活との結びつきを意識してもらった。</p>
<p>授業科目名【 管理栄養士演習 I 】</p> <p>講義を PowerPoint で行い、講義スライドを全て印刷し配布した。補足のスライドなどはカラーが多いので、「講義資料配布システム」を用いていつでもどこでもどの端末からでも講義スライドをカラーで見ることができるように配慮した。また、単に過去問を解くのではなく、なぜこの選択肢が誤答になるのかを一つひとつ丁寧に解説し、類似問題にも対応できるようにした。</p>
<p>授業科目名【 生理学（福祉学科） 】</p> <p>毎回可能な限り講義時間の 10 分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。本年度は、血圧測定と肺活量測定を講義の中に取り入れ、自分の体を使った実習を行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生理学会	評議員（2002年4月～現在に至る）	1999年7月～現在に至る
日本解剖学会	代議員（2019年3月～現在に至る） 九州支部代議員（2013年11月～現在）	2001年10月～現在に至る
日本神経科学会		1996年7月～現在に至る
北米神経科学会		1999年11月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
1. Allopregnanolone augments epileptiform activity of an in-vitro mouse hippocampal preparation in the first postnatal week.	共著	2019年11月号 (Epub 2019年8月)	Epilepsy Research	著者: Sharopov, S., Winkler, P., Uehara, R., Lombardi, A., Halbhuber, L., <u>Okabe, A.</u> , Luhmann, H.J., Kilb, W.
2. Development and persistence of neuropathic pain through microglial activation and KCC2 decreasing after mouse tibial nerve injury.	共著	Epub 2020年2月	Brain Research	著者: Kosaka, Y., Yafuso, T., Shimizu-Okabe, C., Kim, J., Kobayashi, S., Okura, N., Ando, H., <u>Okabe, A.</u> , Takayama, C.
(翻訳)				
(学会発表)				
1. 脊髄発達過程におけるグリシントランスポーター1 (GlyT1) の発現変化	共著	2019年11月9日	日本解剖学会第75回九州支部学術集会 (九州歯科大学、北九州)	著者: 清水千草、友寄竜司、平安山貴江、小林しおり、 <u>岡部明仁</u> 、高山千利
2. 脊髄におけるグリシントランスポーター1の発達変化	共著	2020年3月17-19日	第97回日本生理学会大会 別府コンベンションセンタービーコンプラザ (別府)	著者: 清水千草、小俣大輔、友寄竜司、岡野貴江、小林しおり、 <u>岡部明仁</u> 、高山千利
				教育研究業績 総数 (2020年3月31日現在) 著書 2 (全て共著、査読有、内訳 英文1 和文1) 学術論文 36 (全て共著、査読有) 学会発表 116 (全て共著、内訳 国際学会 41 国内学会 75)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）	
入学試験会議	委員 2019年4月1日～2020年3月31日
動物実験委員会	委員 2017年4月1日～現在に至る
同上	副委員長 2018年4月1日～現在に至る
学生募集委員	委員 2018年4月1日～2020年3月31日
FD委員会	委員 2018年4月1日～2020年3月31日
バトミントン部	顧問 2019年4月1日～2020年3月31日
公的研究費内部監査部門	責任者 2019年度～現在に至る